

米沢市指定有形文化財の指定について

1 米沢市指定有形文化財（工芸品）の指定

米沢市文化財保護条例第5条の規定に基づき、太刀^{たち} 銘^{めい} 国綱^{くにつな} 附^{つけたり} 黒革包^{くろかわつみ} 太刀拵^{たちこしらえ}を米沢市指定有形文化財（工芸品）に指定する。

(1) 種別 米沢市指定有形文化財（工芸品）

(2) 名称及び員数、所有者、所在地

名称及び員数	所有者	所在地
太刀 銘 国綱 一口 附黒革包太刀拵	米沢市	米沢市丸の内一丁目2番1号 (米沢市上杉博物館)

(3) 指定理由

上杉家刀剣台帳に坤^{こん}第九拾弍号として所載の「国綱」に比定される上杉家旧蔵の太刀である。刀身は鎌倉時代初期の京栗田口派^{あわたぐち}の刀工国綱の作、付属の拵は室町時代に流行した革包太刀の好例で、保存状態は良好である。

本太刀は、室町幕府の足利將軍家から上杉謙信に贈られたもので、謙信の信仰に関わる儀式に使用された名刀が本市に伝わっていることの意義は大きく、米沢市指定文化財の価値を有すると考えられる。

2 米沢市指定有形文化財（考古資料）の指定

米沢市文化財保護条例第5条の規定に基づき、大南遺跡出土木製品類^{おおみなみいせきしゅつどもくせいひんるい}を米沢市指定有形文化財（考古資料）に指定する。

(1) 種別 米沢市指定有形文化財（考古資料）

(2) 名称及び員数、所有者、所在地

名称及び員数	所有者	所在地
大南遺跡出土木製品類 五十二点	米沢市	米沢市花沢町一丁目4番21号 (米沢市埋蔵文化財資料室)

(3) 指定理由

大南遺跡は、浅川最終処分場整備事業に伴い、平成28・29年度に米沢市教育委員会が発掘調査を実施した。調査により室町～戦国時代（15世紀代）の在地領主の屋敷地が発見され、屋敷地を区画する溝から陶磁器類のほか、通常の埋蔵環境では残りにくい木製品類が多数出土した。漆器碗などの生活用具をはじめ、手押木^{ておしぎ}・木錘^{こもつち}などの生産用具^{そうぎょうしんりゅうぞう}、僧形神立像に代表される信仰に関わるものなど多種多様な内容となっている。

本遺跡出土の木製品類は、伊達氏が米沢を本拠とする以前の遺物群と考えられ、本市域では歴史資料が希薄な時代であり、そのような時期の地域権力者の居館^{せいぎょう}における生業や信仰の様子を今に伝える希少性の高いものであることから、米沢市指定文化財の価値を有すると考えられる。

答 申 理 由

文化財名：太刀 銘 国綱 附黒革包太刀拵

種 別：有形文化財（工芸品）

員 数：一口

所 在 地：米沢市丸の内一丁目2番1号（米沢市上杉博物館）

所 有 者：米沢市（米沢市金池五丁目2番25号）

（現状・特色）

〔刀身〕

【時代】鎌倉時代 13世紀

【法量】刃長 76.0 cm 反 3.6 cm

〔刀装〕

【時代】室町時代 16世紀

【法量】総長 105.5 cm

本太刀は、上杉家刀剣台帳（1）の^{こん}坤第九拾貳号として所載のものと比定される上杉家旧蔵の太刀である。現在は米沢市上杉博物館が所蔵するが、2009年（平成21）米沢市が個人より購入したもので、上杉家から離れての経緯は不明である。

上杉家正史の『上杉家御年譜』に記載の、永禄2年（1559）10月22日、上杉謙信が足利將軍家から贈られたものに該当するものと考えられる。また、国宝上杉家文書中の「御堂近火手配之図」に「国綱」の名が見え、謙信の遺骸を納めた米沢城内御堂に安置されたものと思われる。

本太刀自体に伝承はなく、上記刀剣台帳の御由緒欄にも付箋で後代の人が「永禄二年十月廿二日足利義輝ヨリ賜リタル藤林国綱ニアラサルカ」と注記している。

刀身は鎌倉時代初期、京粟田口派の^{あわたぐち}刀工国綱の作である。国綱は名工として著名であり、鎌倉幕府執権北条時頼に招かれ鎌倉に下って、相州鍛冶の誕生に関わったと伝わる。代表作とされる御物の鬼丸国綱が有名である。本太刀の姿は、腰反り高く、細身でまた元幅より先幅が細く小鋒で、^{こきつさき}茎から^{なかご}鋒まで美しい曲線を呈す。刃文は^{すぐは}直刃調で^{こちょうじ}小丁子に^{こぐ}小互の目を交え、総体に^{こにえ}小沸つく。板目肌が肌立つ^う地鉄、^は茎は^{おもて}生ぶで^う佩き表の目釘孔上に「国綱」と二字銘を切る。現存する在銘作は少なく、地刃を強調した備前伝の作風を示すのは、粟田口派の中では趣を異にする。

付属の黒革包^{せっぱ}萌黄糸^{みがきじ}卷太刀拵は、室町時代に流行した革包太刀の好例で保存状態もよい優品である。総金具、切羽は赤銅磨地および黒漆塗からなる。柄鞘共に黒革包とし、柄巻と鞘の渡り巻は^{にしきづつみ}錦包^{むかいちよう}萌黄糸を平巻とする。柄には丸に向蝶の赤銅目貫を据える。鐔は銅製、木瓜形、^{ふくりん}覆輪付きですべて黒漆塗とする。帯取と足金物は^{おびとり}皺革で^{あしかなもの}包み、^{しほかわ}太刀緒は^{たちお}啄木打^{たくぼうち}を用いている。

なお、上杉家には重要美術品の「太刀 銘（表）鎌倉住藤六左近国綱（裏）建長五年八月日附長巻拵」も伝来していた。上杉家刀剣台帳では、鎗長刀野太刀之部に野太刀として記載がある。1937年（昭和12）、重要美術品に認定されたが、鎌倉時代を下らぬ名刀ながら、銘に疑義

が生じており、研究資料としての価値、終戦時（第一次世界大戦カ）に行方不明になっており所在の確認の必要性から、重要美術品に取り上げられたことが指摘されている。(2)

(1) 「大正三年調」の追記があることから、旧帳をもとに1914年（大正3）以前に作成か。

佐久市教育委員会所蔵

(2) 資料提供：文化庁伊東哲夫主任文化財調査官

(3) 銃砲刀剣類登録証

山形第3882号 昭和26年6月4日

【参考資料】『上杉家の名刀と三十五腰』（米沢市上杉博物館ほか、2017年）

『桃山—天下人の100年—』（東京国立博物館、2020年）

（指定の意義）

米沢藩の正史『歴代年譜／謙信公』（原本は国宝「上杉家文書」）、永禄二年十月二十二日の条に「將軍家ヨリ上使トシテ大館左衛門佐ヲ以テ 粟田口藤林國綱ノ御太刀 玉潤カ畫ケル平砂落雁ノ御掛物 其外器物ヲ賜ル」とあり、これが由緒と通底するものと思われる。上杉謙信が將軍家から拝領したものと考えられ、伝来の経緯が歴史的に裏付けられる。また、刀身は鎌倉時代の作刀、黒革包萌黄糸巻太刀拵は室町時代の優品として工芸上優れたものである。国宝上杉家文書中の「御堂近火手配之図」に記載されている太刀は、国綱のほか国光・助宗・長光であり、上杉家刀剣台帳には2口の国綱が存在するが、野太刀ではないと思料する。したがって、由緒は本太刀に付されるものと考えるのが妥当であると思われる。

2020年（令和2）、東京国立博物館で開催された『桃山—天下人の100年—』の図録では見開きで、本太刀と重要文化財「太刀 銘 守次（般若の太刀）附黒革包太刀拵」（文化庁所有）が掲載されている。後者は上杉謙信の生家長尾家に伝来したもので、謙信が引き継ぎ、上杉家で大般若会を行う際、供えられたことから般若の太刀と呼ばれた重宝である。特に拵の形状が酷似しており、上杉家においてそれぞれが謙信の信仰に関わる儀式にふさわしい名刀であったことがうかがえる。その上杉家旧蔵の刀剣が、本市に伝わっていることの意義は大きく、米沢市指定文化財としての価値を有する。



太刀 銘 国綱 附黒革包太刀拵

答 申 理 由

文化財名：^{おおみなみいせきしゅつどもくせいひんるい}大南遺跡出土木製品類

種 別：有形文化財（考古資料）

員 数：五十二点

所 在 地：米沢市花沢町一丁目 4 番 21 号（米沢市埋蔵文化財資料室）

所 有 者：米沢市（米沢市金池五丁目 2 番 25 号）

(現状・特色)

大南遺跡は米沢市北東部の大字浅川地内に所在し、天王川（^{てんのう}梓川）^{あずさ}右岸の自然堤防上に立地している。ここは南北に米沢と高畠を結ぶ街道が通っており、天王川の渡河点を容易に押さえることができる交通の要衝と考えられる。

本遺跡は置賜広域行政事務組合の浅川最終処分場整備事業（第 3 期）に伴い、平成 28・29 年度の 2 カ年で約 25,316 m²を発掘調査し、縄文・古墳～近世の複合遺跡であることが判明している（米沢市教委 2020）。特筆される成果として、室町～戦国時代の大規模な区画溝（堀）を伴う在地領主の屋敷地が発見され、区画溝から国産・貿易陶磁器類はじめ、通常の埋蔵環境では残りにくい木製品類が多数出土している。

室町～戦国時代の木製品類は^{ひきもの}挽物が多く出土しており、その中で漆器碗が最も多い。漆器碗は外面黒漆塗りに、^{ほうらいもん}蓬萊文・^{つるまるもん}鶴丸文など縁起が良いとされるものや、丸に^{ふんどう}分銅・^{ちどりもん}千鳥文・植物文などが描かれている。また、図柄が無く内外面黒漆塗りのものがある。漆器皿は内外面黒漆塗りで、見込みに赤漆で図柄が描かれているものがある。これらは使用する機会や場が異なっていたことを示している可能性がある。皿には漆が塗られず木目を明瞭に残す白木地のものがある。

このほかの生活用具では^{ひしゃく}柄杓・^{とって}桶などの把手・下駄・櫛がある。生産用具では紡績で使用される^{ておしぎ}手押木・^{すい}錘がセットで出土し、^{じばた}地機の一部が出土している点が注目され、織物の生産が行われていたと考えられる。また、珍しいものとして玩具と考えられる小型の馬がある。祭祀用の馬形や土馬と異なり、鋭利な刃物で丁寧に成形されて墨書で毛並みが表現されている。

本遺跡から出土した木製品類の大きな特色として、信仰と深く関わる遺物の出土が挙げられる。その中でも特筆される遺物として、日本固有の神と仏教が融合した神仏習合を示す^{しんぶつしゅうごう}僧形神立像^{そうぎょうしん}が出土している。僧形神立像の出土例は全国的にも少なく、石川県金沢市千田北遺跡出土例（金沢市埋文 2018、報告書未刊）が知られるのみで、極めて貴重な資料といえる。信仰に関わる文字資料として、木簡が 2 点出土している。第 1 号木簡は「^{じゅうはちにちかん}十八日^{ぜぼさつ}観世菩薩」と墨書された^{さいにち}齋日信仰や^{ひせん}観音講に関わると考えられる木簡で、形状と下部の円孔から^{きゅうきゅうによりつりよう}檜扇として使用されていた可能性がある。第 2 号木簡は「^{せんだきた}急急如律令」の呪文が両面に墨書された^{じゅふ}呪符木簡と考えられ、これらは当時の宗教観を具体的に示すものとして注目される。

（公財）山形県埋蔵文化財センターが発掘調査し、伊達氏 15 代当主伊達晴宗が一時隠居所とした可能性が指摘されている荒川 2 遺跡（山形県埋文 1997）との共通点も多く認められ、当時の地域権力者の内情を反映した構成と考えられる。

(指定の意義)

今回指定する木製品類は、平成 28 ～ 30 年度に真空凍結乾燥法で保存処理を行った 60 点のうち、出土状況や年代測定の結果から室町～戦国時代（15 世紀代）と考えられる 52 点で、失われやすい有機質の遺物が良好な状態で残る希少性が高い考古資料群である。

これらは伊達氏が米沢を本拠とする以前の遺物群と考えられ、本市域では歴史資料が希薄な時代である。そのような時期の地域権力者の居館における生業や信仰の様子を今に伝える優れたものである。また、文化庁が主催する「発掘された日本列島 2021」展（文化庁編 2021）にも取り上げられた全国的に注目される遺跡とその資料群であり、米沢市指定文化財としての価値を有すると考えられる。

なお、保存処理されていない木製品類に指定すべき価値を持ったものがあることから、今後追加指定を視野に保存処理や調査研究を進める必要がある。

【参考資料】『荒川 2 遺跡発掘調査報告書』（（公財）山形県埋蔵文化財センター、1997 年）

「千田北遺跡で発掘された木像等について（記者発表資料）」（金沢市埋蔵文化財センター、2018 年）

『大南遺跡発掘調査報告書』（米沢市教育委員会、2020 年）

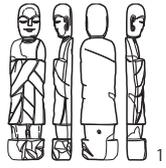
『発掘された日本列島 2021 調査研究最前線』（文化庁編、2021）



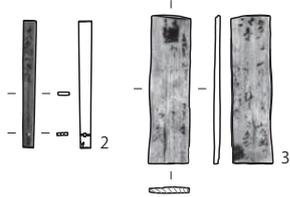
大南遺跡出土木製品類



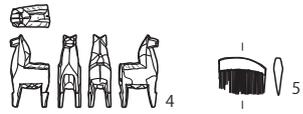
僧形神立像



僧形神立像

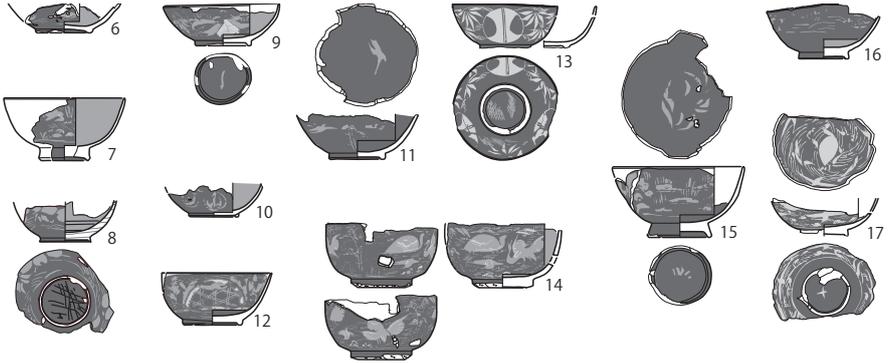


木筒

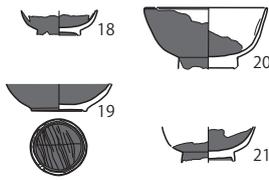


木馬

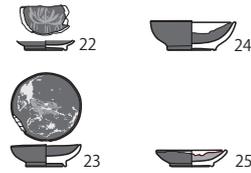
櫛



漆器椀



漆器椀
(黒漆のみ)

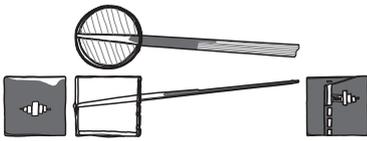


漆器皿

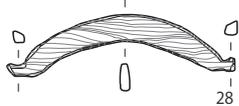
漆器皿
(黒漆のみ)



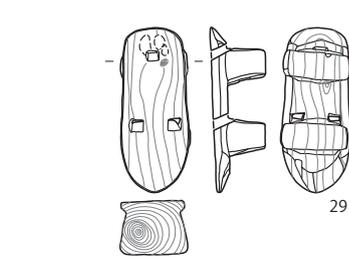
木地大皿



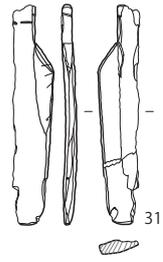
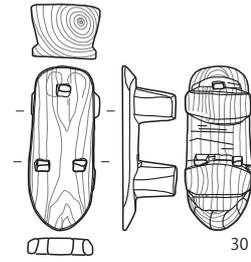
柄杓



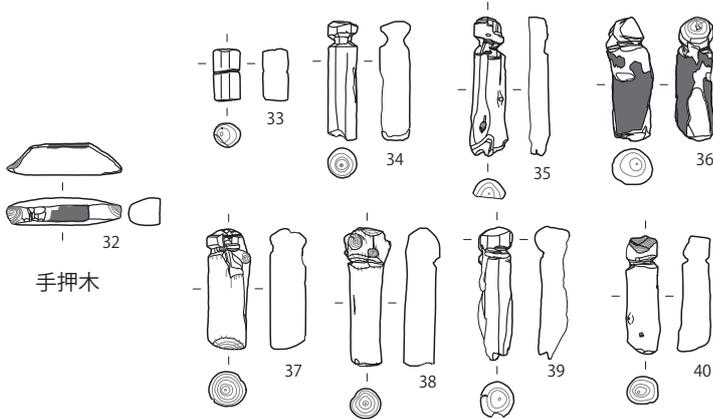
把手



連齒下駄

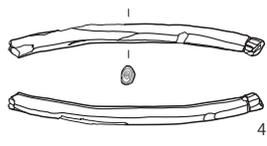


鋤先

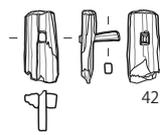


手押木

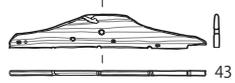
木錘



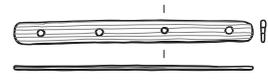
マネキ



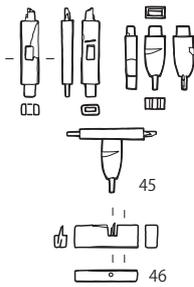
部材



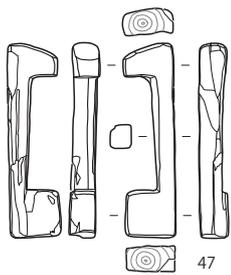
部材



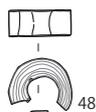
部材



部材



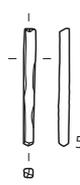
用途不明



48



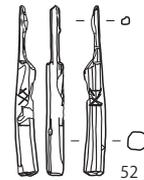
49



50

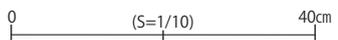


51



52

用途不明



大南遺跡出土木製品類

No.	掲載 番号	登録 番号	種 別	出土遺構	計測値(cm)			特 徴	樹 種
					口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ		
1	522	L-36	僧形神立像	SD5338	20.3	4.5	2.5		ヤナギ属
2	366	L-33	第1号木簡	SD4026東	16.9	1.7	0.5	「十八日観世菩薩」、檜扇か	アスナロ
3	453	L-39	第2号木簡	SD5272	19.8	5.6	0.8	「急急如律令」など両面に墨書	アスナロ
4	539	L-34	木馬	SD5338	9.6	5.2	3.0	毛並を墨書で表現	アスナロ
5	523	L-37	櫛	SD5338	(6.2)	4.8	1.1		カマツカ属近似種
6	302	L-41	漆器椀	SD2135南	-	(7.6)	(3.9)	赤漆で絵付(笹竹文)	ブナ属
7	361	L-45	漆器椀	SD4026東	15.8	6.8	8.3	赤漆で絵付(植物文)	ブナ属
8	362	L-44	漆器椀	SD4026東	-	6.8	(5.4)	赤漆で絵付(植物文・すすき文)、底面に線条痕多数あり	ブナ属
9	364	L-47	漆器椀	SD4026東	(15.2)	7.0	5.6	赤漆で絵付(笹竹文)、赤漆2種あり	ブナ属
10	444	L-48	漆器椀	SD5272	-	(6.4)	(4.4)	赤漆で絵付(鶴丸文)	ブナ属
11	445	L-53	漆器椀	SD5272	-	7.4	(5.9)	赤漆で絵付(千鳥文・すすき文)	ブナ属
12	450	L-52	漆器椀	SD5272	(15.6)	7.6	6.9	赤漆(植物文・半円に斜格子)、赤漆2種あり	ブナ属
13	452	L-40	漆器椀	SD5272	13.8	-	(5.9)	赤漆で絵付(笹竹文)、丸に分銅(中央を細線で分割)、底面に斜格子、赤漆2種あり	ブナ属
14	456	L-13	漆器椀	SD5272	-	8.0	(8.6)	赤漆で(蓮葉文) 体部穿孔・高台部ケズリとばし→柄杓に転用	ブナ属
15	457	L-57	漆器椀	SD5272	(17.1)	(8.1)	9.4	赤漆で絵付(植物文)	ブナ属
16	470	L-14	漆器椀	SD5272	-	6.6	7.9	赤漆で絵付(すすき文)	ブナ属
17	524	L-35	漆器椀	SD5338	-	-	(5.0)	赤漆で絵付(千鳥文・すすき文)	ブナ属
18	116	L-11	漆器椀	SD1031	-	-	(3.4)	内外面黒漆塗	ブナ属
19	294	L-42	漆器椀	SD2135中	-	7.4	(3.7)	内外面黒漆塗	ブナ属
20	383	L-46	漆器椀	SD4026東	15.5	(7.9)	8.5	内外面黒漆塗	ブナ属
21	513	L-62	漆器椀	SD5338	-	-	-	内外面黒漆塗	ブナ属
22	434	L-49	漆器皿	SD5272	-	5.6	(1.2)	内面赤漆で絵付(植物文)	ブナ属
23	449	L-54	漆器皿	SD5272	9.2	5.4	2.9	見込みに赤漆で絵付(植物文)	ブナ属
24	512	L-66	漆器皿	SD5338	11.2	6.4	3.9	内外面黒漆塗	ブナ属
25	533	L-61	漆器皿	SD5338	9.2	5.4	2.2	内面赤漆	ブナ属
26	443	L-59	木地大皿	SD5272	(25.6)	15.0	6.2		モクレン属
27	437	L-38	柄杓	SD5272	(29.4)	8.6	0.4	内外面黒漆塗	アスナロ
28	293	L-168	把手	SD2135中	30.0	3.6	1.6		アスナロ
29	541	L-85	連歯下駄	SD5338	21.9	9.0	7.3	No.30と対	マツ属複雑管束亜属
30	542	L-86	連歯下駄	SD5338	21.8	8.8	7.1	No.29と対	マツ属複雑管束亜属
31	114	L-21	鋤先	SD1220	(24.2)	(5.5)	1.6	農耕具	クリ
32	517	L-110	手押木	SD5338	15.1	3.6	4.1	紡績具	マツ属複雑管束亜属
33	530	L-92	木錘	SD5338	6.9	3.5	3.5	紡績具	ヤナギ属
34	376	L-93	木錘	SD4026東	15.8	3.8	4.0	紡績具	クリ
35	382	L-94	木錘	SD4026東	18.4	5.1	(2.5)	紡績具	トネリコ属シオジ節
36	455	L-98	木錘	SD5272	16.4	5.3	4.7	紡績具	カエデ属
37	458	L-96	木錘	SD5272	16.0	5.0	4.7	紡績具	サクラ属
38	460	L-97	木錘	SD5272	18.4	6.0	5.8	紡績具	マツ科
39	529	L-156	木錘	SD5338	17.7	4.5	(4.7)	紡績具	カエデ属
40	543	L-99	木錘	SD5338	15.6	4.5	3.6	紡績具	クリ

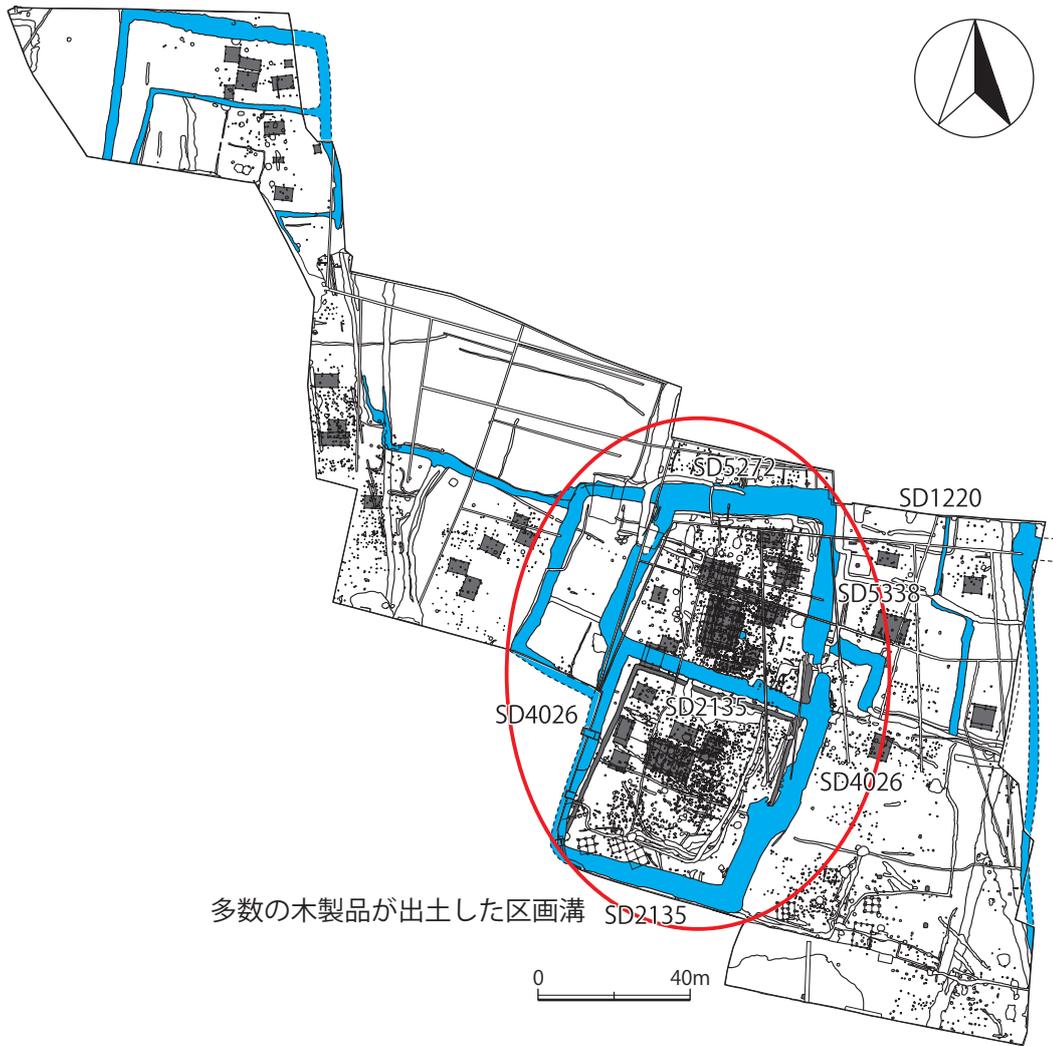
大南遺跡出土木製品類一覧(1)

No.	掲載番号	登録番号	種別	出土遺構	計測値(cm)			特徴	樹種
					口径長さ	底径幅	器高厚さ		
41	521	L-155	マネキ	SD5338	(33.7)	1.7	2.5	紡織具、地機の一部	クリ
42	511	L-109	部材	SD5338	(9.6)	(4.4)	(5.3)	紡織具（地機の一部）か	クリ
43	447	L-145	部材	SD5272	(25.9)	(4.4)	0.6	下地漆塗り、杵型田下駄か	スギ
44	526	L-150	部材	SD5338	29.5	3.0	0.6	円孔4箇所	スギ
45	373	L-108	部材	SD4026東	11.8	2.3	1.4	組み合わせ式	マツ属複雑管束亜属
46	374	L-111	部材	SD4026東	8.4	3.3	1.6	木釘残存	アスナロ
47	440	L-140	用途不明	SD5272	25.9	8.7	3.4	曲物の木鉄か	オニグルミ
48	303	L-114	用途不明	SD2135南	8.2	-	3.5		スギ
49	365	L-95	用途不明	SD4026東	17.0	1.9	1.9		クリ
50	371	L-106	用途不明	SD4026東	15.6	1.5	1.5		アスナロ
51	454	L-107	用途不明	SD5272	2.9	1.9	1.9		トウヒ属
52	446	L-112	用途不明	SD5272	(22.5)	3.0	2.4	「×」キザミあり	クリ

大南遺跡出土木製品類一覧（2）



大南遺跡の位置と周辺の遺跡等



大南遺跡全体図



大南遺跡屋敷地全景（南から）